

【書評】

公益社団法人 日本経営工学会 編

ものづくりに役立つ 経営工学の事典—180の知識—

朝倉書店 383頁 2014年 定価8,200円+税

F. W. テイラーの科学的管理法を起源とする経営工学が100周年を迎え、また、産業そのものが製造業からサービス業へ、実態社会からネット社会へと大きく様変わりしたことから、各産業を管理の面から支える学問である経営工学を今一度見直し整理しようという目的で本書は出版された。学問分野として関連する、日本技術士会経営工学部会と日本IE協会の協力を得て、日本経営工学会が総力を挙げて編纂したものである。

本書は、経営工学の研究・実務分野をその起源から今日までについて大きく10の分野に分け、さらにそれらについて書名のとおり180の項目に細分して解説している。なお、10の分野は、以下のとおりである。

1. 総論：総論研究・教育など
2. 人：人的資源・人間工学など
3. もの・生産管理、供給など
4. 資金：会計、財務など
5. 情報：経営情報、事務業務など
6. 環境：環境経営、リスクマネジメントなど
7. 確率・統計：推測統計、記述統計
8. IE・QC・OR：価値最大化手法、数理計画法など
9. 意思決定・評価：モデリングなど
10. 情報技術：複雑系など

日本経営工学会と本学会は、FMES（経営工学関連学会協議会）の構成学会同士という関係もあり、学問上は経営工学は、ORとのかかわりが大変強い分野である。実際、執筆者一覧を見ると、その半数が本学会の会員である。

本書を読んで、感心させられたことが2つあった。

一つは、すべての項目が研究発表会のアブストラクトのごとく見開き2ページでまとめられている点であり、各項目のエッセンスが分かりやすく解説されており、すんなりと読むことができた。それぞれの項目が、節で分けられ、かつ参考文献が付与されている。特に参考文献については、定番中の定番のものから最新のものまで幅広く紹介されている。「そういえばあのことをちょっと知りたい」といったときにバラバラとページをめくって、関連する専門書がすぐにわかるのは大変ありがたい。

もう一つは、巻頭言に「企業人」と「高校生」のための活用ガイドがそれぞれ示されている点である。われわれORもそうであるが、実学という面が強く、産業界において、大いに利用していただきたいという思いは強い。また特に、次世代を担っていただきたい高校生には、経営工学という単語そのものに全く馴染みがなく、どんな学問分野か想像がしづらい分野である。今後の発展のためには、新たな人材が必要であり、その人材獲得の面にも目が向けられているのは大変素晴らしい。

書名にもあるように、経営工学がものづくりの現場の生産管理や作業研究を発端とした学問であることもあり、製造現場視点の中心として項目がまとめられている。そのためORや確率・統計などはその評価のための要素技術という観点で取り上げられている。逆に、われわれORの立場からもう一度その応用分野を俯瞰し、頭の整理をするのに本書は大変ふさわしい良書と言える。書棚のすぐ手に届くところにぜひ備えておいていただきたい。

(生田目崇)